

(七理 一冊目) 20年2月25日
~ 5月30日

日記帳



五ノ六
七理美知子

學用ノ一ノ製利諾式會社



⊗
No.11
四十枚 三友ノ一ノ製
定價貳拾四錢

二月二十五日(日曜・日)曇・雨
朝起きて、しばらくすると、警報になった。
ので急いで山とんをたたんだ。情報によ
ると、機動部隊が来たさうだ。私達は
急いで學園に行った。
今日は、六年の面會日で、みんな荷物が多
多りので持って行ってあげた。
行く道雪が氷つてとてもすべる。



ふみきりのそばに來ると、空裏になったの
で急いで學園に行き、壕に入った。
しばらくすると、先生がいすを入れて下さつ
た。足がつかれたので、すわった。それから
四人でトランプをした。五十一をしたリ、ペー
じわんをしたリ、つうてんじゃくをしたリ

した。
遊んでゐると

「二つづつ取りなさい。」

とおっしゃっておにぎりの入ったをけを出して下さった。湯気が出てとてもおいしさうだ。

「いただきます。」

といつて頂いた。からくとてもおいし。



おにぎりを頂きをはつてから、繪を書いたりした。晝食は外で頂いた。壕のそばに火鉢を持って来て下さったので當つた。とても寒い。又壕に入る。しばらくすると、空が曇り出し、粉雪が降り出した。だいふたつと、

「壕からいすを出さずに中に入れ。」とおっしゃったので雪の中をかけた中へ入った。もう雪はだいふ積ってゐる。す

ぐ、夕食になった。夕食はライスカレーだった。

村野さんに行つてからお風呂に入れて頂いた。始めふとんをしいて行つて、お風呂から出てからすぐ帰た。とても暖かかった。

二月二十六日(月曜日)晴

昨日降つてゐた雪も休んだ。よかつた。でも澤山積もつてゐる。今日は、警報になるといけないので、三十分早く起きた。でもやっぱりしばらくすると、警報になった。急いで農園に行った。

朝食が終つてから、壕の中からいすを出した。そして雪で足をふいて中に入れた。二時間目は自習、火鉢でもべをかした。舎へ歸つてから、今度三日に(ん)するげきをき宿めた。働く天狗といふのにきめた。

二月二十七日(火曜日)晴

一時間目と二時間目は劇の練習をした。三時間目は壕の雪を取った。乙葉さんと須田さんと鬼澤さんと私は一部三四年の壕をやった。二部三四年が終つてから六年生の壕をやった。晝食が終つてから、げきのれ



人習をした。私は星だ。あとでお面を作
った。
すんでから、一部
五年の作ったス
ベリ臺ですべつた
りした。
とてもよくすべるつておもしろい。

二月二十八日(水曜日)晴
朝はおかゆだった。あつくておもしろい。
(食)午前中、米運びに行つた。五六年だけ
だ。けれども、女は運ばずに歸つた。午後
は、げきの練習をした。女學でした。始め雪
を取りのけた。四五へんし(枝)てから、先生
に見て頂いた。
夜は、ライスカレーだった。宿舎に歸つてから
ほんたうに服さうをしてやった。あとはあみ物
をした。りした。

三月一日(木曜日)晴
一、二時間目、女學校の三四年の部屋をか
りて、げきの練習をした。
裁縫の時間、上着を縫った。とても手がか
がかんでゐて縫ひにくい。今日は、少ししか縫
へなかつた。
午後は、ご小場掃除をした。とてもきれいに
なつた。
掃除がすんでから、井戸こぎをした。ずい分
暖かくなつた。



三月二日(金曜日)雨
 今日、雨が降ってゐる。今日からのどが痛くて、女學校へとまるので、ふとんを持って行って頂いた。私は、寝まきを持って行った。



女學校へ行つて、氣持が悪かつたので、ふとんを敷いて寝た。
 だいたいたつて、お手洗に行き、出て来て戸をあけると、玄關にお母様が立つていらした。私はびくくりした。よくお聞きすると、もん平のきれを持って来て下さつたさうだ。部屋の中に入って、面會をした。とてもうれしかつた。はな緒も持って来て下さつた。しばらくして、
 「では、歸りますよ。早く元氣になるのよ。」
 「ええ。」
 「さやうなら。」

お母様はお歸りになつた。

三月三日(土曜日)晴
 今日、久しぶりに、よいお天気だ。それに三月三日、桃の節句だ。少し氣持が悪かつたが、起きた。

午前中は、演藝會があつた。みんなとてもお上手だ。六年生を送る途中、特別出演があつた。〇一さんや、落語・き術・ふくわ術などだ。とてもおもしろい。
 私達の番には、一生懸命やつた。ほかり組もとてもおもしろかつた。
 晝食は、ごち走だつた。お赤飯におすましにごまじほだ。こつちに来て、始めてのお赤飯だ。とてもおいしい。
 午後は、りよう養所へのごを見て頂きに行つた。
 病室へ歸つてからすぐ痛た。

俳句
 お節句やおひな様も戦争だ。

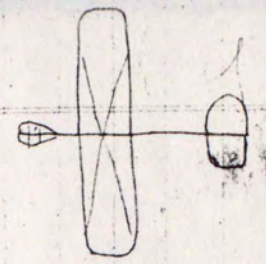


三月四日(日曜日)晴

朝起きてしばらくすると警報になったので、急いで寝の中にあぐらをかいた。御飯になつてもみんなが来ないので、御飯をつけた。解除になつてから、氣持が悪くなつたので病室へ寝に行つた。

三月五日(月曜日)晴

圖工の時間に工作機を作らせた。



そして先生に出した。三時間目、地理の考査があつた。午後、六年生の木内さんと鈴田さんに繪を書きと頂いた。とてもかほいい。

三月六日(火曜日)晴

今日はお目出だり地久節だ。朝會がすんでから、式があつた。お式が終つてしばらくしてから、堀先生の七蔵物語のつづきがあつた。とてもおもしろかつた。

午後リょうよう所へ行つた。お三時にあめがあつた。

夕食後、地理の考査のとうあんを返して頂いた。私は九十五點だつた。

三月七日(水曜日)晴

午前は習習が多い。晝食が終つてから

とさいれんが鳴り出して、警戒警報になつた。しばらくすると解除になつた。しばらくしてから、二部五年は、おしょうゆう運びに行つた。

けれども私は、のどが痛いので行かなかつた。その間あみ物をした。

三月八日(木曜日)晴

今日は大詔奉戴日だ。朝會が終つてから、部屋に入つて、大詔奉讀式を行つた。

式がすんでから、全員まき運がある。私は行かなかつた。いっ(午前中は)も行かなくてみんなにわるい。

残つてゐる私達は、慰問文作業をした。今月は海軍の兵隊さんへ出した。しばらくする

と、
残つてゐる者は落葉集め。
とおつちやつたので、林へ入つて落ち葉集めをし
た。それが終つてしばらくすると警報になつた。
けれどもしばらくして解除になつた。後はごみ場
掃除をした。

晝食前、みんな重いたまぎを持ちつかれてか
へつてらした。悪くてたまらない。
晝食はかき御飯だった。とてもおいしかった。
午後は、あみ物をしたりした。
今日夜、田中さんの家で歌の會があるの
で見に行つた。

三月九日(金曜日)晴

今日で、六年生と鬼強したりするのも最後
だ。六年生は、もう明日歸れるので喜んでゐる。
一時間目、向ふの松林へ行つて、おわかれの言葉
を一人一人言つた。午前

お風呂に入つた。とても気持ちよかつた。
午後三時ごろ六年生の退園式を外で行
つた。代表でおわかれの言葉をいひあつた。
夜、みんな机を集めて、みんな一しほに夕飯
を頂くことになつた。今晚は、とてもごちさう
だつた。お赤飯におすまし、さけのかんづめ、ち
たくわんだ。みんななどの組もつけ終つてから、
大聲で

「頂きます」。

と言つておらういただいた。とてもおいしかった。
宿舎へ歸つてから、一部六年と三部六年とを
送る會を開いた。村野さんの子供たちもみに
来て歌の會を、みんな一人づつ歌つた。私は、「まり
と殿様」を歌つた。乙葉さんや宮澤さんはお
しまひをなされた。六年の方もなされた。
みんなとてもお上手だつた。
歌の會が終つてから、明日の用意をして
寢た。

三月十日(土曜日)

今日は六年生の歸る日だ。朝目をさますと
もう六年生は荷物を用意してゐた。
朝だけで、六年生と一緒に御飯を頂くのは
最後だ。つまらない。楽しく頂いた。
もう朝會が終つてから六年生は荷物を持
つて學園を出て行つた。私達は前んで
「さようなら」
と、いつて、一生懸命手を振つた。六年生は
門を曲つて見えなくなつた。
あとはいろいろな事をした。六年生六十六名
居なくなつたので、ずいぶんさびしくなつた。

三月十一日(日曜日)晴

今日は四年生の面會日だ。とてもより天氣
だが風が吹いてゐる。
表廊下へ椅子を待つて行つて、須田さんと
日向ぼっこをしながらあみ物をした。とても
暖かい。
警報になつたがすぐ解除になつた。

三月十二日(月曜日)晴

今日は風がひどいので、室の中に入った。朝會が
終つてから、場所かへをした。私達は今度三部
の方へ行つた。今度はむきが違ふので、なんだ
か變な気がする。圖工の時間に私は飛行
機が出来たのでつくるひ物をした。
三時間目は、かみ洗をした。とてもさっぱり
した。
午後はお母様がいらした。宮澤さんはえん

疎開なさるのだ。
宮澤さんのお家には、爆弾が落ちたやう
でほんたうにおきのどくだ。しばらくして宮
澤さんは歸って行った。みんな手を振って
「さよなら——」
と行った。

三月十三日(火曜日)晴

一時間目は地理をした。今日は東京から
青森までをならった。あと晝食まで、青森まで
の鐵道をしらべてみた。
午後は、喜門先生と一しょに、田中さんへ國語
をしに行った。田中さんの畠の方へ行って、木
にすわって、國語の源氏と平家のかしやくと、
かん字の昔と訓をお習ひした。三時ごろ農
園へ歸った。
あとはあみ物をした。

三月十四日(水曜日)晴

今日菅村先生が、歸っていらした。
午前中綴方の表紙を書いた。私は疎開學
園の繪を書いた。
午後は、療養所へ体重をく定に行った。私
は、先月と同じだった。へった人も澤山おる。今
度はきこと小やさう。歸ってから日記を書り
た。

三月十五日(水曜日)晴
朝、農園へ行く途中、警報になったので急いで農園へ行った。行ってから壕のまはりでは御飯を頂いた。しばらくしてから解除になったから、私達三班は、風呂當番をした。一生懸命したりののですべりた。私達がわかったので、いつもより、氣持がよく感じた。午後、部屋に入ってから、防空服さうの上着をぬいだ。だぶだぶたつてから、急に先生が「もうすぐ考査をするぞ」とおっしゃったのでみんな急いで練習を始めた。考査は外でやった。しばらくして、かへして下さった。私は、九十九點だった。あとは、堺井さんと、相良さんと、一しょに先生の洗濯物を洗った。私は、くつ下を洗った。夕飯も中で頂いた。

三月十六日(金曜日)晴
今日は、宿舎移轉作業がある。私達は同じ村野さんだ。けれども、今度、一部五年と、二部四年、三部四年が来るのだ。今までは、二部五年は、二部四年のふとん、荷物などを運ぶお手伝ひをした。私は、相良さんと一しょにふとんと荷物をこらたりに持ちながら行った。

向ふにつけてから、今度は、田中さんから一部五年のふとんなどを運んだ。すんでから、晝食になるので農園へ帰った。午後は、又村野さんへ行って、荷物を整頓したりした。

三月十七日(土曜日)晴
午前中落葉集めをした。一生懸命集めて
何べんも運んだ。

一生懸命やったかひがあつてねんりよう置場
が一ぱいになった。

三月十八日(日曜日)晴
今日は私達の面會日だ。うれしい。朝會が終
つてからあみ物をしてお母様のいらっしやるのを
待った。十時ごろお母様はいらした。今日もうら
の日あたりのよい所で面會した。
いろいろなお話などをした。うち物もして頂いた。
今日新しい防空頭巾を持って来て下さった。
うれしい。

晝食前二部五年はお風呂へ入った。晝食が終
つてから又面會を始めた。しばらくしてから警報
が出た。でもすぐ解除になったのでよかった。そ
れから風が出て来た。あとしばらくお話してから
お母様はいらした。

さようならー

そのあとは部屋に入ってトランプをした。夕食
が終つて歸る用意をしてゐるとお母様が面會
にいらしたので歸るまで面會をした。お母様
におあひ出来てほんたうにうれしかった。お母
様から、繪はがきなどを頂いた。

三月十九日(月曜日)
午前中、二部五年は菅村先生のおさしずで裏
のねん料置場をきれいにした。なんだかとても廣
々としたやうになった。

午後には、たたみふきををした。眞黒だった。たみが、とてもきれいになった。あとは日記を書いた。

三月二十日(火曜日)晴

午前中警報が出た。私はたみしてゐてあみ物をした。
午後二部五年は女学校のたたみたたきをした。ずる分はこりが出る。たたりてから中に運んだ。警報が出たが、すぐ解除になった。解除にな途(中)つてから残りのをたたき、あとははいてたたみをふいた。

三月二十一日(水曜日)晴

今日は春季皇霊祭なので授業はお休みだ。学園へ行く途中も皇の上でひばりが、チクピーチク、なっていておた。もうすっかり春になったのだ。風もなまめる。若芽ものびて来る。小鳥も鳴いてゐる。

春！春！春！楽しい春！

明るく美しい春！

夕方大本營発表があった。ついに硫黄島は玉砕されたのだ。ああ硫黄島の兵隊さん方最後まで戦って下さってどうも有がたうございまして。せん頭がさがる。にくらしい敵米・英！まこと兵隊さん方のかたきを討つぞ。

麦ものび

ひばりも

なくや

春の午後

三月二十二日(木曜日)晴
午前中全員島仕事をした。たがやすのた
二部五年は七号地を石田先生のおさしず
たがやした。ここにじゃがいもを植えるの
一生懸命たがやした。

午後は休んだ。私は遊んだり日記を書
いたりした。

一部六年

三月二十三日(金曜日)晴
今日もよい天気。

朝會が終つてから、終業式まで自由に
した。十時ごろから中に入って終業式があつた。
もう私達は六年生になったのだ。最上級生
だ。これからは、ますます勉強運動にはげみ

下級生のてほんになるやうにしよう。
終業式が終つてから、菅村先生のこくべ
つ式があつた。菅村先生は今度東北帝
國大學にいらっしゃるさうだ。つまらな
午後は一部五年と二部五年は村野さん
へ苗りもを取りに行つた。
歸つてから自由にしておいた。

三月二十四日(土曜日)

九時から全員米運びに行つた。途中紅梅白
梅のが澤山咲いてゐた。

今日は、半とう運んで来た。あんがいかるかつた。

午後は休んだ。

三月二十五日(日曜日)晴

今日は日曜日だ。けいも午前中ま
き運びに行つた。今日も遠い。敵機見学の
そばで、丘の所だ。

今日は
三四本づつだ。背中にしょって行った。

おだやかな

春の日あびて

薪運び

とても重かった。歸りは小平分しょうを通
つて行った。

歸ってから、真黒(ミ)な顔をした。とても
氣持がよい。あついで少しぬいだ。

午後は休養だった。

今おつうしんぼを頂いた。

三月二十六日(月曜日)晴
今日は(中)休養だ。うれしい。朝會はな
かった。

午前中、かみ洗をした。お湯で洗った。
とてもさっぱりした。あと、おせんたくをした。

午後、鬼澤さんと、相良さんと、塚井さん
とわなげをした。なかなか入らない。だんだ
ん、きよ里を遠くして行った。

三月二十七日(火曜日)晴

今日も午前中新運に行った。今の所は
おととひより近い。所々に梅が澤山ソリンに
ほみをさせて咲いてゐた。

今日は近りが澤山持って行くのだ。私は
五六本しょって行った。とても重い。でもが
まんして持って行った。學園へ行くと、まき
をおろすと、なんだか軽くなった。せうな氣がし
た。
(あまり氣持がよいのぞ)

午後お風呂に入った。つかれがどっかへきえ

たやうな気がした。

三月二十八日(水曜日)晴

午前中は島仕事をした。二部六年は二号地を掘返して、うねを作り、そこにじゃがいもを植えた。たぬりもも作ったりした。大きいのは半分は切つて、くさうなりやうに灰をきり口につけるのだ。私達は一番に出来た。きつと大きな大きなじゃがいもがなりますやうに。

午後警報が出た。今日はB29一機だ。きつとこりさつだらう。

夕方、今喜門先生が、多摩御陵へいらし、おみやげにこしさを買つて来て下さったさうだ。それをみんなに一つづつ下さった。

夜宿舎へ歸る途中、そばの子供がくれた、紅梅をたははせて頂いた。とてもよいかほりなの

高田先生に

で鼻をすりつけてにほった。ほんたうによいかほりだ。

三月二十九日(木曜日)晴・風

朝、學園へ行く途中、兩側の島を見ると、麥が勢ひよく青々としてびびる。その先につゆが降りてゐるともきれいだ。道の

はしにもよもぎが生えてゐた。今日は休養だ。とても暑いのぞつしぬいだ。午前中日記を書いた。トリランプをした。下が出来た。うれし。

午後警報が出た。やっぱりB29一機だ。しばらくして解除になった。それから風がひびくようになったので中に入った。中で大島さんたちと、ランプをした。

夜宿舎へ歸る。とみると、部屋の中はほりりで一足あるくとあしあどがぶくほどだった。のできれいにほうきではいた。

三月三十日(金曜日)晴

朝起きて見ると、もやがかかっている。道は夜
雨が降ったらしく、しめこころる。

今日も休みだ。

お晝前お風呂に入った。きゅっきゅこす
った。

晝食は牛肉の肉御飯だった。こつちへ
来て牛肉は始めてだ。とてもおもしろい。

午後は、日記を書いたりあみ物をしたりした。

夕食にはお赤飯だった。

宿舎へ行く途中、つくしが顔を出して
いたので、取った。

宿舎へ帰ってから、村野さんの子供に梅を
もらった。

とても

きれいで

いりにほひだ。

三月三十一日(土曜日)

午前中私達は島の整地作業をした。晝
食は、おかゆだった。

午後、警報が出たがすぐ解除になった。解
除になつてから、全員大根運びに野野さんへ

行った。途中、畠道を通つてみると、ひばりが
ポイチクポイチクさへづこつてゐた。

一人二本づつ、
持つて来た。

帰つてから、あみ物をした。夕方、山口先生
に、さんぱつをして頂いた。

四月一日(日曜日)晴

今度はさし疎開するので、今日、お母様がつうした
方は、帰つてよりことになった。朝會のあと主事

先生から、さし疎開の事についてお話があった。

今度は、富山縣へ行くのだ。それで今日から、九日
までお家へ帰(の福光)つてゐてもよきことになった。

お話が終ってから、席にもどってお母様のいっ
つしゃるのを待った。もういらした方もある。
何れやてのようと思っても、気がむしやくしゃ
して、今日はじつとしていられない。みんなかま
根の方へ行ったり門へ行ったりして、人が来な
いかと見てみた。

お母様はお母様とソッショに晝すぎごろいっ
した。喜んでとんで行った。えんこ疎開する
もゐるが私は集團だ。お母様は、私が今日
歸ってもよつといふとびくくりな(方)さつておた。
それか(の)よら歸る支度をした。おしよ
うゆうおめえ。お大根を頂きに行ったりした。
三時ごろ學園をたち、宿舎へ行き、荷物を
置いてお家へ歸った。お家へ歸つて

「ただ今日、
といつとみんなびくくりして歸つていっした。夕
食がすんでから、いろいろなお話をした。お家
は、前とちことも變つてはゐない。九時ごろねた。
や久しがりにお家のおおとんでねる。
お母様とソッショにねた。

集團も

よりけれども

家はより。



四月二日(月曜日)晴

「言ひさりれんの音で目がさめた。お母
様は、もう防空服さうをしていらした。お母
が起きあがると、お母様は、

「美知子ちゃん、空襲になるまでねて
いてもいいですよ。」

とおっしゃった。何だかこは、で、起きて
ゐた。時計を見ると、三時ごろだ。お母様は、
「次々とやつて(来た)来る。お敵(敵)は、
防空壕に入つてゐた。時々、
ドドドドッ。」

とすごい音。

「美知子ちゃん出て来て来(こ)うんたす。
といはれて外へ出て見ると、前の方(前)は、真赤だ。
「しょうめい弾なども落ちてゐるの(が)だよ。」

とお兄様の聲。お母様は、

「東京はこはいでせう。美知子ちゃんも早く
疎開した方がソッショよ。」(お家はよりけれど)
とおっしゃった。私は、(ああ)やっぱ疎開し
た方がよ(よ)んだ(だ)と思つた。

警戒警報は四時ごろ解除になつた。そ
れから又一眠した。

目をさますと、もうお家の人々はむきこ(こ)り

七曜之素直なところが大変よく表れてるね

らっしやる。急いで起きた。
朝食が終ってからお父様やお兄様やお姉様などは、学校へいっしょにしゃつした。お母様と私はお家で話をしてたりした。久しぶりにお使ひにも行った。夕方お風呂に行つた。お母様のお背中を久しぶりに洗つた。お母様はずいぶんお疲れだ。四月三日(火曜日)晴

今日は宿舎へ荷づくりしに行くのだ。朝からお母様といっしょに持っていく物を整理した。午後から、お母様とお姉様といっしょに、目白驛へ行った。西武線が不通だといひので中央線の国分寺へ行き、国分寺から、多摩湖電車で乗つて行った。村野さんへ行つてみると、ずいぶんお疲れだ。私達もすぐ荷づくりを始めた。お米とおたけ、お取りに行った。荷づくりしてゐるうちに真暗になつてしまつたので、明日することにして歸つた。途中真暗で何もわからない。お家へついたのは十時ごろだつた。お食事をして寝た。

四月四日(水曜日)雨
今日は、雨が降つてゐる。お母様とお兄様は、雨の中を村野さんへ荷づくりしに行つて下さつた。私は雨が降つてゐるのでせめた。お母様などがいっしょに帰つたり、ローカをのりたりした。お父様のお手傳ひをた。お母様などは、十一時ごろ歸つていらした。

四月五日(木曜日)晴
お家へ歸つてもう五日目。お家へ入るのももうわづかだ。今日もお部屋の掃除をした。ローカをのりたりした。門へ出て見ると、梅がきれいに咲いてゐた。門の左々木さんの家の櫻はもうまんかだ。
午後、おとなりの和子ちゃんといっしょに、
強制、
米生疎

開でこはれた所へ板なびを取りに行った。す
ぐ門まで。未半疎開なのだ。澤山待って歸った。
強制

(めん料にする)

夕方お母様と一しょにお風呂へ行つた。お母様
のお背中を洗つてさしあげた。

四月六日(金曜日)晴

朝起きて見ると、もう、ローカに日びさしてゐた。
御飯が終つてから、お庭を見に行つた。
私が疎開する前まじりた人蔭が葉は小さいけ
ども、實がずぬ分多きくなつてゐた。お父様のお
うほになつたぬきも多きくなつてゐた。

こから、落合長崎郵便局へ、**強**書を出
しに行つた。目日通は、**強**疎開でこは
つてゐる。戦車で引つぱらるのだ。一ツ引
つぱる家の柱をなわでむすび、**強**がらがらとすこ
り音とともに土ほこりが一度にたつ。もうずぬ分
こはれてゐた。
歸つてからお母様のお手傳ひをした。
夜、お父様とお母様の肩をたたいてさしあげ
た。久しぶりだ。

四月七日(土曜日)晴

朝食が終つてしばらくしてかゝると
うらうら
ときりれんが鳴り出した。電報を聞くと、
敵編隊だ。急いで防空服さうをした。今日は
せん闘機も一しょに來たのだ。ラジオでは、かん
せんたる防空水さうをのびむといつてゐる
敵はずぬ分おくれに來た。私は壕の中に入

つて知らなかつたが、家の前をゆらゆらと、編隊
が通つて行ったさうだ。もたいぶたつて解除になつ
た。
午後、おさとろや、おしょうゆ、おしほを買つたり
お母様のお手傳ひをした。

四月八日(母曜日)晴

出発するものも、もう明日になつてしまつた。明
日の晩たつこは思ひない。

~~お母様と一しよに
お母様と一しよに
お母様と一しよに~~

今日は学校一行くのだ。九時までにおくれないや
うにお母様と一しよに行つた。学校は、前とか
はそはおなり。みんな来て待つていらした。九時ごろ
から、講堂でお話があった。お辨當や、汽車などのお
話だつた。あとから、運動ぐつせ(福光のこせ) 福光

一待つて行く物を頂り廻つて歸つた。
あ、あこの学校もしばらく見られぬ。
お家へ歸つてから、明日持つて行く物などを
お母様と一しよに用意した。お母様と一しよに
夜、お母様と一しよに寝た。お母様と一しよにも
寝むられぬ。
あ、えん坊ですわね。七理すえは。
おほい、おちやん

四月九日(母曜日)雨

いよいよ、出発する日が来た。何だかうれしいやう
な悲しいやうな気がする。

朝ちよつと目をさますと、お母様が私をだきし
めてゐて下さつた。暖かきお母様。私は、富士山に疎
開して、お母様と一しよに国民(やさしい)にならなければ
なう。おてほんになるやうない。そして、来年歸つ
て来たうば、お母様のお手傳ひをしやうと心にち
かつた。

よく見ておますわね。

お食事が終わってから、お姉様は、お家で、^(私)お物、お母様と私は、明治神宮へ参拝しに行つた。雨が降つて、雨の中を、ぬるが、参拝しに來てゐる人もゐた。玉砂利をさくさく歩んで行つた。神殿の前、何とも言へぬ、^神心うしき、心の底まで澄もやうだ。

「ハチバナ」
「はく手の書が、この静かな神殿にひびいて行つた。私は、
「どうの日本の國が勝ちますやうに、私が疎開して、リフはな少國民になりますやうに。」
とお祈りした。

家へ歸つて、お母様とお姉様と「しよに、私のお辨當を作つて下さつた。その間、お兄様が寫眞をうつして下さつた。
夕食も終りのしよに、家を出かけることになつた。お家の方に
「行ってまいります。」
をして玄関を出た。^(お家)お家ともしばらくお別れだ。

上野驛までは、お母様とお姉様とお兄様とがお見送りに來て下さつた。上野驛を降りて車坂口に行つた。行つてみると、お達の組の人たちは、三三人いりしてゐた。しばらくして、集合になつ

たので、お母様などから、お荷^(物)を受け取りお別れした。荷物はとても重い。
せり列して、少したつてから、お母様の方を向き、みんな「しよに」

「行ってまいります。」
と大聲で言つた。しばらくしてから、ホームへ入つた。

「お母様さやうならう。」
ホームで待つてゐると、汽車が來た。急いであわてずに乗つた。乗つてから、先生に荷物をあげて頂つた。一つのりすに三人づつすわつた。少したつ

と、
「ホー——」
と汽笛が鳴り、走り出した。^(外は)眞暗で何も見えな

い。
早くお休みなさい。
と先生にいはれたが、なかなかねむれなかつた。かしらな、まにうとうと、^寝寐てしまつた。

四月十日(火曜日)雨(外は)

ちよと目がさめると汽車の中だ。少しうす明るくなつておき。ほかの人も起きてのびのびした。まで寝むくてたまらぬ。汽車はトンネルを通過してゐる。しばらくして出た。八時ごろお辨當を少し頂いた。朝食が終つてから、高田先生や、乙葉さん五年生と一しよに、トラップをして遊んだ。時々トンネルを通る。大きな川なども通つた。だりがたつと山が見えて来た。まだずる分雪が残つてゐる。

たいくつなので、外の景色を見てみた。長野に来た。そこで、人が一度にどつと乗り込んで来た。十二時ごろ晝食を頂いた。お母様のお心がこもつてゐるのでなほさうおもしろい。晝食が終つたころから海が見え出した。もう日本海側に来たのだ。直江津のところまでいくつもトンネルを通

端

つた。時々、なだれおけのトンネルがある。夕方高岡へ着いた。雨が降つてゐる。高岡から城線に乗つて、福光へ行った。福光の驛を降りて見ると、福光国民学校の生徒さんたちがおむかへに来ておて下さつた。すぐに福光国民学校へ行き、それからお辨當だけを持って、今日泊る立野ヶ原の訓練道場へ行った。行つてから、みんな一しよにお辨當を頂いた。しばらく遊んでから、訓練道場のおらとんをおかりして、寝た。

四月十一日(水曜日)雨

今日も雨が降つてゐる。上原さんのかきに入れ

町長さんなどのお話などが

福光国民学校へ行つてから、お式をした。福光国民学校、赤松国民学校、松達、それぞれ代表の人たちがあつた。松達は立川さんだ。お式が終つてから、山下寮へ荷物を運んだ。

それから、訓練道場へ行ってトランプをして遊んだ。
 夕食の時に、明日まで持たないものを先生に見て頂いた。持たない物はなるべくおあがりなさいとおっしゃったが、少しの食べれなかつたので、あと先生にさしあげた。あとで阿部先生が、「今晚荷物がついたさうだ」といって、おっしゃったのでみんな喜んだ。

四月十三日(木曜日)晴

今日は、とてもよい天気だ。みんな喜んだ。外に出ると見ると、山がはつきり見えた。朝食は訓練道場で頂いた。すんでから、すぐ、国民学校へ行つた。それから、先生のお話があった。私達は午前中、山下寮から、吉波寮へ荷物を運び、それが終つてから、山下寮をお掃除するのだ。お話を終つてから、先生にお話を伺つて、吉波寮へ荷物を置きに行つた。荷物を置き終つてから、山下寮へ行つた。私は小川さんと一しょに二階のお部屋をお掃除した。
 午後、荷物を解いた。一つ一つといた。荷物は一部屋にまとめた。夕食が終つて、歸つてからいる物、食器などを出し、あとの荷物はひとまぶたにのせた。

四月十三日(金曜日)
 朝食が終つてから、吉波寮へ行き、荷物を出してきちんと整とんせした。それが終つてから、ゴサベリを取り、下に敷いてあつた紙も取りはいた。ゴサベリを敷いてから、きれいにふいた。とてもきれいになった。



四月十四日(土曜日)晴

朝食が終つてから寮舎へ、食器を置きに行つた。置き終つてから、九時までに八幡宮に集合した。先生のお話によると、四五年は金澤へ行く道を途中まで行軍するさうだ。すぐ出發した。しばらく行くと、細道に出た。両側は田んぼだ。みんな、さきを取り前に流した。お話を終つてから、學校に置いてあつたまきを、山下寮に運んだ。夜、吉波さんのお家のお風呂に入れて頂いた。

おとんをしいてめら、入った。高田先生が一人、體
 を洗って下さった。とても氣持がよい。出てから、
 すぐ寝た。大きな深い風呂だから、よく身が
 浮く。



四月十五日(日曜日)晴

今日は本祭だ。朝から、たりにが鳴っている。朝
 食が終ってから、寮舎へ歸って、洗濯物とバケツを
 持って、小矢野川へ洗濯しに行った。先生にホをく
 んで頂いて洗った。晝食が終り、食器を洗ってゐると
 「おみこしが出る」といって、みんながかけて行くので私も急いで、洗って
 行った。行って見ると、だいに「おみこし」のせてあった。
 神主さんがおみこしの前(の上)で、のりとを、およみに
 り、まさかおみこしはおはらひなされた。それが終ってから、
 おみこしをみつぎお宮のまはりを三べんぐらおまはって、
 おみこしが出て来た。鳥は、おみこしを見て、今戦争してゐるとは思へない。

つた。それから山下寮へ、並木先生の荷物を取りに行
 った。



四月十六日(月曜日)

今日、國民學校で体重を測った。私は、
 今度、二十七・五で、0.5上がった。来月はもっとい
 やさう。歸りに石碑を見て、畠の方を通過して寮舎へ歸
 った。夕方、高田先生につれられて、お散歩に行
 った。つみきは柳並がある。二階くらゐる吠りであ
 った。そよ風が吹いてとても涼しい。夕日がし
 らむ時山が光り、川に、夕日のみかげがうつこととも
 きれいだった。



四月十七日(火曜日)

今日寫眞送つので、製服を着て行った。段に並んで待っていると、寫眞屋さんが来た。ばらくして

「さう、うつしますよ。く。」

とソビ、川チ。とうつしてしまった。

午後、つらみへ行き日向ぼっこをしながらあみ物をした。

四月十八日(水曜日)晴

今日、主事先生が東京へお歸りになるのだ。朝會のあと、主事先生から注意があった。川に入つてはいけないこと。口き物をこぼしてはいけない事。からだを丈夫にすることなどだ。歸つてから、お家の方のお手傳ひをした。夕食が終り、寮舎へ歸つてから、あみ物をした。

四月十九日(木曜日)雨

今日から、授業があるのだ。一時間目、修身の時間。右にすわって、高田先生のお話を聞きした。

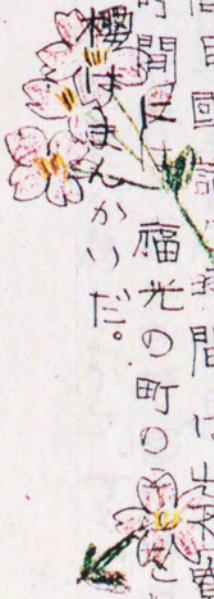
國語の時間は、草原へすわって、黒龍江の解氷をおならひした。

三時間目、算数の時間は、自習なので山下寮へ行き、會議室で日記を書いた。午後が

寮舎へ歸る時、雨が降ってきた。それで、大島さんと、吉田さんとが、寮舎へかきを取りに行って下さった。歸つてから、日記を書いた。ソトラニプをした。

四月二十日(金曜日)晴

一時間目、國語の時間は、山寮でした。地理の時間、福光の町の話をしうべた。もう、櫻はまかいだ。



体操の時間、歩くけいこをした。
夜、おきたに入らせて頂いた。とても暖かい。おこ
たの中(つ)で、あみ物をした。

四月二十一日(土曜日)

午前中は、小矢部川のつづみで、黒龍江の
解氷をお習ひした。それが終わってから、自由
題で、綴方を書いた。春のおだやかな光がし
ずかに私達を照こくれる。とても気持ちよい。



夕方、高田先生と森先生と一緒に、お散歩に行
った。夜櫻がともきれいだ。榎が落ちてみ
たので拾って帰った。

四月二十二日(日曜日)

今日は、青少年学徒にたまはりたる勅語
記念日だ。朝會のあと、明治神宮をまじり拜
し、五六年は、勅語を奉讀した。

寮舎へ歸ってから大掃除をした。私は三橋
さんと、堀井さんと一緒に、お庭をはりた。大掃
除が終わってからかみ洗をした。四人づつお風呂場
でさせて頂いた。何んもよくゆすいだのは始め
てだ。

とてもさっぱりした。
午後、賣物屋さんごっこをした。私は堀井き
んと、相良さんと一緒に、八百屋さんとお花屋さ
んをした。
夜、お風呂に入れて頂いた。



四月二十三日(月曜日)

今日は、立野ヶ原へお辨當を持って行軍す
るのだ。朝食が終ってから、すぐ出發した。とて

も暑い。
訓練所へ着いてから、みな洋服をぬいだ。それでもまだ暑い。それから石黒さんのお話があった。クライダーの事だ。それが終ってから、クライダーの説明をして下さった。しばらくしてからお食事になった。私達は高田先生並木先生と一緒に草原で頂いたのでおおい。



すんでから、一しよに谷を見に行った。途中で、ふきのとうを取った。ずうと歩いて行くと、谷らしいものがないので、もとの所へ帰った。しばらく、草原で遊んでみると、集合になったので、集合し、神社へ歸った。夕食、ふきのとうをきざぎざ、おみそとまぜて頂いた。

四月二十四日(火曜日)
國語の時間は、日露戦争記念碑の石段で、今日、永久五をお習ひした。地理の時間は、**境内**で、**ナ**だりてした。

午後は、山下寮へ行ってお洗濯をした。私はバケツで洗った。もう櫻は、散って、もうすぐ葉櫻だ。

四月二十五日(水曜日)

音楽の時間は、天長節の歌をいへん歌って終りだった。そのあとで、ごむ飛びをした。体操の時間は、かほうへ行つて、**産川**の、だむのお話をお聞きした。

夕食は、おさうすめだった。

午後は、自習だったので、寮舎へ歸つて、日記を書いた。

夕食が終り、寮舎へかへてから、りんごを頂いた。とてもおおい。



四月二十六日(木曜日)

修身の時間は、石にすわって、始末教育に、**後**する勅語を奉讀してから、大御心の奉體をおならひした。

國史は山下寮の玄関でさんきやくにすわ
つておならひした。
終つてから、順番にさんばつしに行つた。



とてもさつぱりした。歸つてから日記を書い
た。

四月二十七日(金曜日)

國語の時間に綴方を返していただいた。
今日、高田先生は、お家へおかへりになるの
だ。
國語が終ると、夕立が降つて来たので、下
寮へ行った。地理の時間は、図書館でし
た。すんでから、お掃除をして寮舎へかへ
た。
歸つてから、荷物の整理とんをした。

四月二十八日(土曜日)
一時間目二時間目は、自習なので、寮舎
へかへつて、あみ物をしてしたりした。三時間目は、
式の練習があるので、福光國民學校に行
つた。今日は、福光赤松も一しよだ。
午後は全部自習だ。寮舎へ歸つて、綴方
用紙の表紙をつくつた。



四月二十九日(日曜日)

今日は、天長節だ。校服を着て、行った。
朝食は、お赤飯に、こらやどらふ・まめ・小まきの
にたのなじとも御ち走だつた。すんでから、
お式があつた。リッパニやめた。
晝食がをはつてから、相良さんと畜さんと、乙
葉さんと、私とくに子さんと、一しよにたにし取
りに行った。バケツ半分ぐらぬ、取つて来た。

夕方お風呂に入った。

四月三十日(月曜日)



朝會が終つてから、塚井さんと、相良さんと、吉田さんと、私とは、山下寮へお洗濯に行つた。



午後荷物のせりりをしてみると、高田先生が歸つていらした。
あとはあみ物をした。
夜、アルプスの山のお話をして下さった。

④ 五月一日

今日は、田舎のたまごが、下りく、書いては、月、月末は、急いそ、書いた、為、り、せ、う、か、や、し、短、い、繪、は、す、ま、い、な、い、日、の、あ、る、も、ま、ま、い、り、す、か、う、そ、の、日、は、あ、い、な、り、で、つ、め、る、書、き、と、い、つ、も、七、曜、え、そ、ま、い、か、よ、く、日、記、に、表、は、て、な、し、先、生、も、讀、ん、で、な、さ、い、く、な、さ、い、た、ま、す、く、明、な、い、よ、い、子、に、な、ら、う、と、下、り、ま、い、ね。

五月一日(火曜日)曇りのち雨

もう、五月だ。今月、もし、こ、か、り、暮、し、て、行、か、う。

今日は、風が、ひ、ど、く、て、空は、今、に、も、雨、が、降、り、さ、う、だ。

朝食が終り、外に出、て、見、る、と、雨、が、降、つ、て、ゐ、た。そ、れ、で、宿、舎、へ、レ、ジ、ン、コ、ー、ト、を、着、に、行、つ、た。

朝會が終つてから、製材所へ、薪を取、りに行、つ、た。
(雨の中を)

たきぎを三四本持、つ、て、山下寮へ運、ん、だ。
午後、山下寮へ行、き、薪、を、持、ち、國民學、校、へ、行、き、か、は、り、た、薪、を、持、ち、山下寮へ運、ん、だ。

それが終つてから、寮舎へ歸り、田螺の中實を取、つ、た。バケツ一ぱ、め、あ、つ、た。田螺も、私、達、が、一、生、懸、命、取、つ、た、の、で、夕、食、ま、で、に、取、れ、た。

夕食は、ライスカレーだ、つ、た。
今日、も、夜、昨、日、の、お、話、の、つ、づ、き、を、し、て、下、さ、つ、た。
あ、つ、と、つ、づ、く、の、だ。



五月二日(水曜日)雨

今日は雨が降ってゐる。朝會が終つてから、山下寮へ行き、近藤先生のお手傳ひをした。体重計と身長計を、きれいにふいた。

二時間目と三時間目は、圖書館の二階で國語・御旗のかけをお習ひした。

書食の時、疎開學園情報があつた。ドツツは、つひに、降伏を申し出たのだ。日本一國になつても、きつと、がんばりぬかう。

四時間目、体操の時間、モールスマ表號の表を作つた。それが終つてから、寮舎へ歸つて日記を書いた。山のす(つぎ)そのへんまで、曇がかかこる。今日も寝こから、先生がお話して下さつた。今晚は、ひつじのむれ、だつた。又明日が楽しみだ。



五月三日(木曜日)晴

一時間目、修身の時間、炊事場の大掃除をした。たななどは、ずいぶんごみが出てくる。おはちなどもどけから、て、きれいにはいた。すつこなども取つて掃いた。

大掃除が終つてから、圖書館に行つて日記を書いたりした。その時、高田先生が、新聞を、ごらんになつて、

ヒットラー 總統はつひに、薨去なされたので、すよ。

とおっしゃつた。ああつひに、ヒットラー 總統は、なくなつたのだ。

今度、デーニッツが 總統になつてうしたのだ。書食の時、ヒットラー 總統、薨去のことと、沖

桃



五月四日(金曜日)晴

吉波さんの門の所や、道の兩側には、デージーやすみれや、たんぽぽの花が、春の光をあびて、はよく咲いてゐる。道ばたにうすむらさきのすみれかな。春の日を、あびて、デージーうれしそう。



芭蕉の能句
赤々と
日はこれなくも
秋の風

それで、芭蕉塚を見た。



縄の戦況の情報があつた。午後、近くに、天然痘が発生したので、種痘をした。ちっとも痛くはない。夕方、高田先生と、お散歩した。



五月五日(土曜日)雨

今日は、端午の節句だ。雨が降つてゐる。(決戦下の)朝食は、お赤飯。こんにゃく、やきどうら。うさぎ、じゃがりもあずのこのにたのなごとも御ち走だった。ほんたうは今日お辨當を持ち、安居寺

一時間目の國語は、石碑の石段で、御旗の影をお習した。それから、晝食まで、高田先生に、アルプスの山の娘を讀んで、今日のところは、大さわぎといふ所だ。とてもおもしろい。晝食が終つてから、すぐ山下寮へ行った。身体検査をして頂くのだ。始め、体重、身長を計つた。体重は、三十八キログラムあつたうれし。来月は、もうこのやさう。身長は、一四六だ。それから、お医者さまに、体を見ていただいた。最後は、目は、私は、両方とも一五だ。

へ行軍するはずだったのだが、雨が降って
 止るので中止になった。
 午前中六年の女子は、今度お借りす
 る、女学校のお教室を、お掃除しに行
 った。
 きれいに掃き、ついた。午後は、寮舎へ
 帰った。帰って日記を書いたり、おはがきを
 書いたりした。
 夜の自由時間には、音楽會のプログラム
 を作った。寝てから、アルプス山の歌をして下
 された。今夜は、「新しいおはさま」といふの
 だった。明日の晩が楽しみだ。

五月六日(日曜日)晴

今日は、よい天気だ。午前中、福光國民
 学校の運動場で、全校鍛練があるのだ。
 運動くつをはいて行った。
 朝食が終ってから、すぐ白い下着になり、もく
 べいをめりて、運動場へ出た。集合になるま
 で、蹴壘球をしてみた。
 始め、全校体操をしてから、投壘球をし
 た。それが終ってから、六年女子だけで、蹴
 壘球をした。私達、白は四點、黒は三點ま
 った。最後に、久しぶりに、運動場で、分

列行進をした。思ひつきり、歩いた。一生
 懸命、運動したので、あせが出た。
 午後、寮舎へ帰ってから、頭洗ひをした。
 とても、さっぱりして、気分がよい。
 夜、頭が、おふとんを敷いてから、お風呂
 に入った。田島さんの、へちまをおかりして、
 きれいに洗った。おふとん、先生がおはが
 きき下された。お家からだ、うれしい。

五月七日(月曜日)晴

今日も、よい天気だ。太美山へ、山菜を取り
 に行くので、袋を持ちたり、足ごしらへを
 かりして、女学校へお食事しに行つた。お辨
 當などを、先に出発した。途中には、山がき
 つつ、いなかの花がきれいに咲いてみ
 る。ずづくと、島道を歩いて行
 くと、神明社に來た。そこで十
 分間、休んでから、又歩きだ
 した。しばらく歩いて行くと、ま
 だ五つくらゐの、男の子が、お母さんと一しょに、
 鎌を持って、たがやしてゐた。私は、あんな小
 さな男の子でさへ、あんなに働いてゐるのだから、
 私達は、もつと、もつと、頑張らなければならぬ。



と、思った。どんどん、島道を歩いて行く。堀先生のお家に着いた。東京とはちがって、とても太い柱だ。そこで、お辨當を頂いた。とてもおいしい。そこが、山の中に入り、ふきのびるなどを取った。とても澤山ある。

立野ヶ原で、のびる。せんまいなどを取りながら、訓練所へ、向って歩いて行った。訓練所の方へ行くと、飛行兵の練習に、がうかくした人達が、グライダーで、滑走の練習をしてらした。風の向きをしらべるために、吹き流しが、鯉のぼりのやうに、動いてゐた。私達は、すわって、見えてゐた。しばらくして、教官の方が、飛行機を下さった。ミートルが、お上つて、すうと降りた。その姿が、とてもきれいだった。それから、集合して、山下寮へ向って歸った。

長年のまま
山下寮で、種類に分けた。
（いろいろな）



五月八日（火曜日）晴
今日は、大詔奉戴日だ。朝會が終つてから、講堂で、奉讀式を行った。午前中は、慰問文作業をした。今月は、海軍の兵隊さんへだ。心をこめて、一生懸命書いた。



午後、慰問文を書き上げ、封筒を作り、高田先生に、検えとして頂いて、封筒に入れた。終つてから、宿舎に歸った。夜、今日は、（月おくれの）お誕生日なので、お様がお（おしゃが）様（の）經を讀んで下さった。今日のは、觀音經といふのだった。それで、あつた。何か、こはり時とか言ふときは、南無觀世音菩薩と言へば、ちつともこはくはなりといふお話を、して下さった。

五月九日(水曜日)雨

朝起きて見ると、雨が降ってゐた。かはりさつに吉波さんのお庭のしゃくなげも、雨にうたれて下を向いてゐる。

一時間目、算数の時間には、阿久澤先生だ。戸籍調べがあった。



二時間目は、炊事場で、のびるの根や、きたなり所を取った。

午後は、英霊奉迎があるので、昼食が終つてから、校服を着て、寮舎へ歸つた。全員そろつてから、福光驛の方へ歩いて行つた。途中、大通で止つて、英霊をお待たした。しばらくすると、「氣を付け。」

と、いふ号令。「禮！」私達の前を英霊が静かにお通りになつた。

兵隊さんどうも有がたうござります。私達は、まこと、にくい米英をやつてます。

あと、ほんたうは、まき運なのだが、雨が降つてゐるので、中止になつた。その間、山下寮で、宮地先生と石田先生がお話をして下

さつた。

五月十日(木曜日)曇

今日は曇つてゐる。

午前中は、製材所から薪を運んだ。七回運ぶのだ。持つて行くと、一等兵とか軍曹とか、おしやるので、澤山持つて行つた。

私は、見習士官だ。



午後、國史と圖エをしてから、寮舎へ歸つた。寮舎で、発表會の練習をした。私は、ひよこだ。夕食は、よもぎ御飯だつた。とてもおいしかつた。

五月十一日(金曜日)曇

今日も、太美山へ山菜を取りに行くのだ。お辨當をつめてすぐ出發した。すうと、なりの花鳥が、つづりてゐるとてもきれいだ。でも、空は、曇

島の花

つてみる。
今日は、もうなれたのか。ちっともつかれない。島道をどんどん歩いて行った。



途中、道を右にまがってしばらく行くと、あるお家の前でとまった。ここは、先生の、お友達、桃野とおっしゃるお家ださうだ。そこで十分くらい休んだ。
出発して、いよいよ山に入った。そこで、おきせんまいなどを取った。
山を降りて行くと、雨が少し降り出したので急いで、そばの国民学校へ行った。まづ、校長先生に御挨拶をしてから、体操教室をお借りして、(後) 昼食を頂いた。昼食

が終ると、もう雨がやんでみた。
今度も、又山に行き、おきせんまいなどを取った。川のそばでは、すかんぼを取った。塚井さんの袋は、一ぱりになったので、今度は私の中に入れた。帰る途中、おきせんまいに笑ってみた。しばらく行くと、小矢部川にそぐって歸った。

五月十二日(土曜日) 曇時々雨

今日は、防空訓練があるので、防空頭巾を持って行った。こちらに来て始めて防空頭巾がやくにたつのだ。

二時間目の授業をしてみると、

「訓練空襲警報」

になった。急いでくつをはき、神社の境内へたひひした。先生がいろいろな情報をおっしゃる。おきせんまいもした。

しばらくして解除になった。集合してから宮地先生の、今日の防空訓練についての話があった。

午後、大島さんのお母様が面會にいらした。うらやましい。

夜は、私達の寮舎におとまりになった。

ふせい



五月十三日(日曜日)曇のうち晴

今日ほんたうは、午前中、全校鍛錬があるはずなのだが、曇ってゐるので止めになった。それで、午前中は、寮舎大掃除になった。心とんなどをどけて、きれいに掃いた。それが終つてから、暗まを縫った。途中、大島さんのお母様がお歸りになるので、小矢部川までお送りした。
午後は、女學校のお不淨のお掃除をした。とてもきたない。でも一生懸命したのでとてもきれいになった。うれし。
歸つてから、暗まをぬらつづきをした。夜、お風呂に入った。とても氣持がよ。みんながそろつてから、又、はじを讀んで下さった。

五月十四日(月曜日)晴
今日はとてもよい天気だ。今日から、午前四時間やることになった。
一時間目は、山下寮でお濯をした。とても澤山ある。私はバケツでした。



國語の時間は、「見わたせば」をお習ひした。
國史の時間は、^耕地整理記念日の所で、やった。春の日は氣持よく私達を照してくれる。
晝食のあと、情報があつた。あか島にいた國民學校の生徒は、敵が上陸して來たので、ついに、手リゅう彈を持って、最後の、きりこみをなされたのだ。
私達と同じ方々が、私達はきつと最後まできりこみの意氣で敵を撃滅し

かう。

午後久しぶりに、お習字をした。

五月十五日(火曜日)曇

今日は曇ってゐる。三時間目久しぶりに、理科をした。

四時間目には、發育検査があつた。私は、0.5へつてしまった。

来月は、心やさう。✓はありの違ふところのり

晝食後、石碑のそばで、発表會の練習をした。

それが終つてから、教室で日記を書いた。

換
五月十五日

長年ある。もつと簡単に、まゝまい
一日一行でもよいのう。後まを、頭ののり、ゆるぎ
事を、こころ。

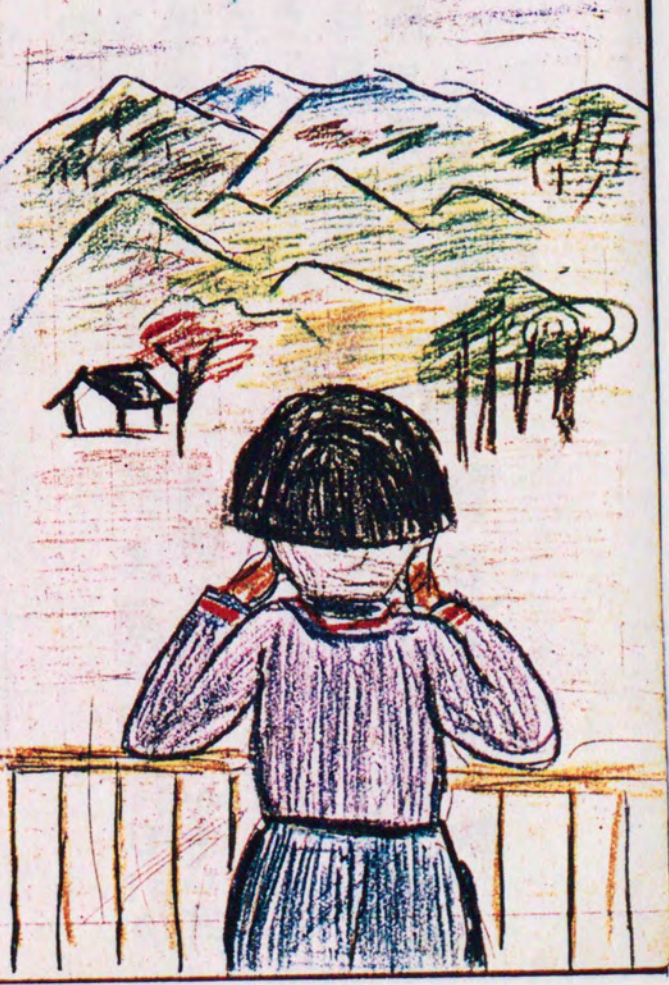
夜、音楽會をした。

五月十六日(水曜日)雨のち晴

今日は雨が降つてゐる。きつとお百しようさんは喜ぶだらう。でも私はつまらない。

國語のあと、たりくつなので、外の景色を見た。とても山がきれいに見えた。

裁縫が終つてから、体操教室で、げきの練習をした。もう明日は、発表會なのだ。



五月十七日(水曜日)風雨

ものすごい風音で目がさめた。ガラス戸が、がたがた音を立ててゐる。

今日は、風がひどいな。と思った。時々、ビュービューと、風の鳴る音がする。

外へ出て見ると、今にも吹きとばされさうだ。午後から、発表會があつた。私達は一番びり

だ。やる時になつた。胸がどきどきする。終つてやつと、おちついた。

発表會はとてもおもしろかつた。ローカで先生がお手紙を下さつた。お母様からだ。うれし

い。私は、涙を流して、目に涙がたまつた。お母様は、私の物を、持って逃げ下さつたのだ。

お母(父)の中を、一様の有がたさを、私はつくづく感じた。そして、ますます心の底に決心した。

(かたくな)

五月十八日(木曜日)雨
 このごろはお元気が悪いので、つまらな
 い。今日も雨だ。一時間目はしめ出したの
 で、高田先生と一しょにお散歩した。近
 の栖霞園へ行った。ここは、前、福光城が
 あつたやうだ。ただ石碑があるだけだ
 た。國語の時間、姉に入った。私はお姉様
 のことを思ひ出した。……目にお姉様
 のお顔が浮んで来るやうだった。

五月十九日(金曜日)
 朝から、體がだるいので、病室で寤た。と
 てもたつくつた。少し寤たと思つとすぐ目が
 さめてしまふ。三回ほど先生が来て下さ
 った。私は先生に御心配おかけしてわる
 き水いなの花
 も持つて来て下
 された。

いなと思つた。
 夜よくなつた
 ので起きた。
 何だかいらくする
 やうな気がした。



五月二十日(日曜日)曇午後晴
 朝目をさますと光がさし込んでゐたので今
 日はよいお天気だと思つた。として朝起
 きて見ると、やっぱり昨日のやうに曇つて
 ゐる。
 午後、髪洗をした。お湯で何べんもゆすいだ
 とてもきもちよくなつた。お庭に出て、日にめ
 はかした。
 「よく洗へますか。」



五月二十一日(月曜日)曇
 「起きなさい」
 とおっしゃる先生のお聲で目がさめた。今日
 は、かけ足をするので早く起きたのだ。
 外へ出て見ると、とても氣持がよい。朝の新
 鮮な、空気を胸一ぱり吸つた。私は、早起は



ずぬ分氣持がよいなあと思つた。
朝食がすんでからお辨當を持って、桑山へ山菜を取りに行つた。途中、チヌリツプが美しく咲いてゐた。登りはとても急だ。頂上へのぼり着いた。とても暑い。下を見下すと、とてもきれいなのにびっくりした。ずうと、續いてゐる。富波平野。その真中に、福光町が小さく見えた。向ふの山は、雲がかかつてとても美しい。
その景色を見ながら、おいしく、晝食を頂いた。がけの所で、いきをたくさん取つた。下りは、とてもすべる。ゆづくり歩かうと思つても、足が先に進んで、すぐ走ってしまふ。

しばらくして、ふと外を見ると、つ降り始めたのか。雨がしとしと降つてゐた。
五月二十三日(水曜日)雨
今日も雨が降つてゐる。
音楽の時間、始めて、加藤先生に日本海海戦の歌をお習ひした。早く音楽室が
おかり出来るとうい。



五月二十二日(火曜日)曇のち雨が空をおほつてゐる。
今日も曇り。今にも、雨を降らせさうな雲が空をおほつてゐる。
朝會の後、勅語奉讀式をした。
午後、チブスの予防注射をした。あとがとても痛り。
それが終つてからあさつき。根、きたない所を取つた。

やっと今日、くつ下が出来上った。



五月二十四日(木曜日)晴

目がさめた。光がさし込んでゐる。今日は久しぶりに、より(小どん)お天気だ。うれし。出発まで、川はたへ行った。波に朝日がさして、とても美しい。午前は、又立野ヶ原へ、わらびを取りに行った。とても澤山ある。あつて困るほどだ。どんどん取った。一人が三日分取ればよりのだ。袋一ぱい取って帰った。夕方、お散歩した。中洲に、渡って、遊んだ。水は、とてもつめたくなってすんでゐる。帰る時山の方を見ると、夕やけに山がそめられ、とてもきれいだった。夜、とてもむし暑いので、なみなか寐むれなかつた。

五月二十五日(金曜日)晴

今日もよりの天気だ。理科の時間に、石の研究をした。私は、緑色片岩と、りんのを拾った。石になんかに種類などないと思つてゐたのに、水、岩とか、岩などあることがわかつた。とても暑い。汗が出て来る。私は、真夏になつたら、ど(小)りとも(小)んなに暑くなのかしらと思つた。時々風が吹いて来るのである。とても気が持がよい。五月二十六日(土曜日)晴 午前中、福光・赤松國民学校の方々の、学習発表を見せて頂いた。とてもお上手だ。あと晝食まで、神社境内で、投遊球の練習をした。明日は、投遊球大會があるのだ。一生懸命練習しやう。



海軍記念日

五月二十七日(日曜日)晴

今日はよりよ投避球大會だ。しっかりと頑張りよう。

朝は曇ってゐたが、朝會の時は、とてもよい天気になった。

始め、三部六年の二組とした。一生懸命戦ったので勝った。勝てようとは思はなかつたのに勝つたのでうれしくてたまらなかつた。先生の所へ飛んで行った。

二回目は、一部六年の二組とやった。これも勝った。

いよいよ、準決勝だ。相手は、三部六年の二組。やる前は胸がどきどきする。

みんな心を合はせて一生懸命やった。でも、一點だけ負けてしまった。くやしくてたまらなかつた。目に涙がたまつてしせん泣けて来てしまふ。私は、もう一ぺん、勝負をさせて頂きたかつた。もうくやしくて、あきらめがつかなかつた。でも、先生方が。

「しっかりとやった。えらい。これまでに三回まで来たのは、おなれ。なかなかよくやった。」とソッて下さつたのがうれしかつた。

五月二十八日(月曜日)晴

今日はわらび取り。立野ヶ原へ行った。とても暑く、訓練所から、しばらく行くと、又滑空訓練をやつてらした。それを、草原で見學した。今日は、岩丸先生・阿部先生・八鍬先生もお乗りになつた。地上滑走だ。とてもすすしうだ。私も乗つた。やうな気がした。だつが、行ってから取り出した。とても澤山ある。袋、半分ぐらゐ取つた。寮舎へ歸つてお晝寝をした。



五月二十九日 火曜日 晴
 理科の時間に、何久澤先生が、地球・太陽・宇宙のことを話して下さった。図エの時間境内で、寫生のつづきをした。



五月三十日 水曜日 晴

今日もとてもよい天気だ。うれしい。午後からは、待ちに待った、夜間行軍がある。晝食が終ってから、石田先生が、「七理さん」とおっしゃって小包を渡して下さった。私はうれしくてたまらない。二時ごろ出発した。立野ヶ原に着りてから、お炊のお手傳ひをした。今日の夕食は久しぶりに、青天土の下で頂いた。とてもおいしかった。